

## 農業物価指数平成22年（2010年）基準改定結果について

平成24年10月18日  
農林水産省大臣官房統計部

### 1 平成22年基準改定の公表

農業物価指数（農産物価格指数及び農業生産資材価格指数）は、平成24年6月分（7月30日公表）より平成22年基準の指数を農林水産省ホームページにおいて公表している。

なお、今回の基準改定の概要を説明した資料についてもホームページに掲載している。（参考資料を参照。）

### 2 平成22年基準指数と平成17年基準指数の比較

農産物価格指数及び農業生産資材価格指数について、平成22年基準（新基準）及び平成17年基準（旧基準）の比較を行った結果は、以下のとおりである。

#### （1）価格指数（総合）の年次別価格指数の比較（別添1）

##### ア 農産物価格指数

平成17年基準（旧基準）の平成22年の価格指数（総合）が101.9であり、今回の基準改定において、平成22年の価格指数（総合）が100となることから、平成22年の価格指数（総合）が▲1.9ポイント低下することとなった。

なお、近年低下傾向にあった価格指数（総合）が平成22年で上昇しているのは、平成22年が記録的な夏の猛暑の影響などにより野菜や果実の出荷量が減少し価格が上昇したためである。

##### イ 農業生産資材価格指数

平成17年基準（旧基準）の平成22年の価格指数（総合）が109.9であり、今回の基準改定において、平成22年の価格指数（総合）が100となることから、平成22年の価格指数（総合）が▲9.9ポイント低下することとなった。

なお、価格指数（総合）が上昇傾向にあるのは、近年、飼料や光熱動力などの原料価格が高騰しており、資材価格が上昇しているためである。

#### （2）価格指数（総合）の月別価格指数の比較（別添2）

##### ア 農産物価格指数

新・旧基準の月別価格指数を比較すると、両者の動きはほぼ同様となり、対前年同月騰落率でも、両者の間で著しい差がみられない結果とな

った。

なお、他の月に比べて8月から11月の乖離差が大きくなっているのは、同時期に出回りとなる果実（早生温州（みかん）、なし等）の価格指数が基準改定により低下したためである。

#### イ 農業生産資材価格指数

新・旧基準の月別価格指数を比較すると、両者の動きはほぼ同様となり、対前年同月騰落率でも、両者の間で著しい差がみられない結果となった。

### （3）パーシェ・チェックの結果（別添3）

農産物価格指数（総合）及び農業生産資材価格指数（総合）について、平成17年基準（旧基準）の平成22年の年次別価格指数を用いてパーシェ・チェックを行った結果は、以下のとおりとなった。

#### ア 農産物価格指数

農産物価格指数は2.1%の乖離率となった。

前回の基準改定（平成17年基準改定）より乖離率が大きくなっているのは、野菜や果実の平成22年の価格指数の上昇に加えて、野菜や果実のウエイトも平成17年基準（旧基準）より平成22年基準（新基準）の方が増加しているためである。

#### イ 農業生産資材価格指数

農業生産資材価格指数では0.2%の乖離率となり、前回の基準改定（平成17年基準改定）と大きな差はみられなかった。

### （4）価格指数（総合）の対前年騰落率の比較（別添4）

農産物価格指数及び農業生産資材価格指数について、平成23年の価格指数（総合）の対前年騰落率を新・旧基準で比較した結果は、以下のとおりとなった。

#### ア 農産物価格指数

農産物価格指数では、平成22年基準（新基準）が平成17年基準（旧基準）に比べ0.8ポイント上昇した。

この差が生じた要因について、価格指数（総合）の対前年騰落率に対する類別価格指数の寄与度を算出したところ、米の寄与度が▲0.2ポイント低下しているものの、野菜、果実、花きの寄与度がそれぞれ0.48ポイント、0.2ポイント、0.16ポイント上昇したことによるものであった。（別添4の表1を参照。）

#### イ 農業生産資材価格指数

農業生産資材価格指数では、平成22年基準（新基準）が平成17年基準（旧基準）に比べ▲0.1ポイントの低下となった。

この差が生じた要因について、価格指数（総合）の対前年騰落率に対する類別価格指数の寄与度を算出したところ、光熱動力及び農機具の寄与度がそれぞれ▲0.09ポイント、▲0.13ポイント低下したことによるものであった。（別添4の表2を参照。）